

「第1回 物流ネットワーク機能継続検討WG」を開催しました

○平成30年7月豪雨により、中国地方の東西を結ぶ幹線道路や鉄道など物流の大動脈が寸断され、広域物流ネットワークの強靱化、とりわけリダンダンシーを確保することの重要性が再認識されました。

○平成30年7月豪雨における広域物流ネットワーク寸断に伴う物流面の問題点を洗い出し、今後の中国地方管内の非常災害時における物流のあり方を検討するため、中国地方国際物流戦略チームの下に、「物流ネットワーク機能継続検討ワーキンググループ」を設置し、3月26日(火)に第1回会議を開催しました。

○当会議では、物流関係者からの意見を基に整理した論点について意見交換を行い、今後の取組みを確認しました。

※中国地方国際物流戦略チームとは、関係機関相互の密接な連携により、地域の実情に応じた国際物流のボトルネックの解消と、効率的な新しい物流システムの構築を目指すことを目的に、産学官の関係者で構成された組織。平成18年8月に設置し、本会議、部会、利用者懇談会を行っている。

開催概要

【開催日】平成31年3月26日(火) 13:15~14:45

【場所】広島合同庁舎 4号館 2階 共用第11号会議室

- 【次第】
- (1) 座長の選出
 - (2) 平成30年7月豪雨災害を踏まえた論点整理(案)について
 - (3) 今後の取組み(案)について
 - (4) 今後のスケジュール(案)について



「第1回 物流ネットワーク機能継続検討WG」開催状況

<主な意見内容>

(経済団体等)

- ・どこからどこにどれだけのものが運べるか、どれだけのストックが置けるかといった、需要と供給について、具体的な検討もした上で、次のステップとしてどのように代替輸送手段を確保可能かというところまで検討できたら良いのではないかと。

(物流関係団体等)

- ・海上輸送は関係者が多数存在するので、プラットフォームがあった方が荷主にとっても分かりやすく、スムーズに代替輸送を実施できるのではないかと。
- ・国土交通省港湾局が昨年発表した、港湾の中長期政策PORT2030において、岸壁の標準化等、港湾規格の統一化の話も出ているが、そちらも射程に入れてご検討頂きたい。
- ・具体的な代替輸送ルートとしてこういうものがある、という情報をどこかが発信するだけでも意味があるのではないかと。

(地方公共団体等)

- ・輸送モード間での連携という観点も論点に盛り込んだ方が分かりやすいのではないかと。
- ・非常災害時を考え、内航航路の定期化に向け取り組んでいきたい。
- ・既存の定期航路を活用した代替輸送が効果的ではないかと思う。

(有識者)

- ・海上輸送手段を確保しても、港までのルートが確保できなければ意味がない。
- ・荷主にとっては最終目的地にいつまでに届くのが重要。それらを踏まえ、荷主から見て分かりやすい手順書にしていくのが重要。
- ・物流ネットワーク機能継続にあたっての問題は広範囲だが、今回の案はまず、海上輸送から考えていきましょう、ということ。なぜそれを選んだかということ、単なる防災・減災だけでなく、人手不足というものもある。その中でモーダルシフトをしている事業者もある。各経済活動に適応化した防災・減災の仕組みが必要。港湾間だけでなく、内陸の荷主に届かないといけないため、そこまでの陸上輸送網も機能する必要がある。ただ、全く機能しないところは内航で代替するのも良いのではないかと、というのが今回の論点。

中国地方国際物流戦略チームの概要

設置目的

- ・中国・ASEAN等が生産拠点・販売拠点として急成長し、国内企業が調達・製造・販売拠点をアジアにシフト
- ・我が国の経済活動を支える国際物流と国内の陸・海・空の各輸送モードが有機的に結びついた迅速、低廉でシームレスな物流ネットワークの構築が必要
- ・関係機関相互の密接な連携により、地域の実情に応じた国際物流のボトルネックの解消と、効率的な新しい物流システムの構築を目指す

検討体制

本会議 ※平成30年10月9日開催

- 中国地方国際物流戦略チームの取り組み方針の策定
- 取り組み方針に基づく、政策提言の方向性策定
- 政策提言の策定



活動方針を
政策提言に反映

現場の課題を
活動方針に反映

部会 ※平成30年9月18日開催

- (各年度)政策提言案の策定

現場の意見を
政策提言に反映

- (各年度)政策提言のフォローアップ



- 利用者懇談会を踏まえた各港湾の意見集約

物流ネットワーク機能継続検討WG

- 非常災害時における物流のあり方に関する検討

※今回新設

検討結果報告

利用者懇談会

- 各港湾における取り組み状況・課題に関する意見交換

各港湾の意見

陸上迂回による代替輸送	論点①	広域的な物流ネットワークが寸断された際に、物流事業者が速やかな陸上迂回輸送ルートを決めるよう、道路交通情報提供の一元化を進める必要があるのではないか。
他の鉄道路線による代替輸送	論点②	主要鉄道貨物路線が寸断された際に、他の鉄道路線による代替輸送が速やかに行えるよう、平時から備えておく必要があるのではないか。 (例: 鉄道貨物輸送の多重化、緊急時の代替輸送マニュアルの策定、代替輸送の情報提供手段)
海上代替輸送	論点③	非常災害が発生した場合、速やかに海上輸送路を確保するための事前の準備をしておくべき事項があるのではないか。 (例: 海上輸送路を速やかに開設するため、関係者で手続きを共有して活用できる仕組みづくり)
	論点④	非常災害が発生した場合、速やかに海上輸送船舶を確保するための検討が必要ではないか。 (例: 定期航路の空きスペースの利用、定期航路の寄港地追加、臨時航路開設)
災害時の物流拠点	論点⑤	非常災害時の物流機能分散という観点から中国地方における物流拠点の配置について検討すべきではないか。
代替輸送の実施全般	論点⑥	物流業界の人手不足が顕著となっている現状を踏まえ、非常災害が発生した場合、速やかに代替輸送を行えるように、平時より輸送ルートを複数確保(陸上輸送(道路・鉄道)、海上輸送)するための検討をすべきではないか。